

令和6年12月2日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

国際交流・輝くまちづくり調査特別委員会
委員長 谷口 翔馬

国際交流・輝くまちづくり調査特別委員会調査報告書

本委員会に付託された調査事件について、調査の報告を別紙のとおり智頭町議会会議規則第77条により報告します。

1. 調査期日 令和6年10月8日～11日
2. 調査地 大韓民国 楊口郡
3. 調査目的 円滑な国際交流と国際的視野を広め輝くまちづくりを推進するため、本町と友好提携を結んでいる韓国楊口郡の事務・事業の調査を行う。
4. 調査内容 (1) 地方議会・自治体制度
(2) 楊口郡におけるまちづくり
5. 調査委員 北川 貴将 議員、仲井 荃 議員、西尾 寿樹 議員、
岡田 光弘 議員、田中 賢 議員、谷口 翔馬 議員、
波多 恵理子 議員、大河原 昭洋議員、安道 泰治 議員、
谷口 雅人 議員
6. 調査の概要および所感

本町は平成11年に韓国楊口郡と友好提携の協定を結び、これまで職員交流や中学生による青少年交流が行なわれ、互いに訪問と受け入れを繰り返してきた。しかし、近年は新型コロナウイルス感染症など諸事情により交流が一時途絶えていたが、昨年、楊口郡守、議会議長訪問団が来町され、今後の交流について話し合われ再開することとなった。

今回、智頭町議会の楊口郡訪問は平成24年以来実に12年ぶりとなり、当時の様子を知る議員は1名のみで、大半の議員が初めての訪問である。楊口郡の北部は北朝鮮との軍事境界線と接しており、朝鮮戦争の大激戦地であった。楊口郡の総面積は約701km²で本町の約3.1倍、人口は21,000人で本町の約3.4倍である。他にも住民登録のない軍人が15,000人駐留しているということである。

主な産業は農業であり、米、スイカ、ズッキーニ、にんじん、生花などが生産されている。ハウス栽培が盛んに行なわれており、ビニールハウス設置に対する行政からの補助率は80%ということで、1次産業における力の入れようが伺えた。

楊口郡議会は定例会が年2回開催されており、1回の定例会が約15日間で行われる。他に臨時会が年4回開かれ、期間は1回が3日間と決まっている。議員の選出方法は楊口郡が3地区に分けられ、それぞれ1名の計3名、楊口郡全体で3名が選挙で選ばれ、江原道から1名が選出されて議員定数7名で構成されている。議員報酬は350万ウォンで、円に換算すると約38万円となる。これらは全て法律によって定められているということであった。

共通した大きな課題としては、日本が東京への一極集中が見られるように韓国においては、ソウルへの一極集中が進み、国民の約1/4がソウル圏に

集中しており、それによる地方での若年層の減少に歯止めがかかっていない現状があるということであった。この点については、楊口郡でも様々な政策が展開されているようであったが、決定的な解決策を見出したというところまでは至っていない様子であった。

今回の視察を通じて、楊口郡全体としての訪問者を温かく丁寧に迎え入れる姿勢があり、郡守、議員、職員、通訳、説明者に至るまでホスピタリティの高さが徹底されており、国民性や、地域性もあると思うが、四半世紀の交流を通じて楊口郡・智頭町の多くの人々が互いを理解し合い、立場を越えて交流の輪を拡げてきた実績を感じることができた。これから先、さらにこの交流が途切れることなく大きな成果を生み、楊口郡・智頭町双方の発展に寄与することを願うものである。